

どーらく 改題 逆説土楽たより

断捨離考

1月号(NO64)通巻214号

2024年1月10日(水)発行(毎月10日)

【農暦】困った時の神頼みではないが良い年になって欲しいと思う！

○形ばかりだが御節でお屠蘇を頂いた。いろいろ問題の多い中で、新年を迎えることが出来たことに感謝したい。元日に家族で初詣に、恒例にしている布施弁天に行った。長蛇の列に並んでしばらく進んだところで、並んでいる人の携帯が一斉に鳴った。揺れもなく、何も気にせず、お参りし、おみくじ、お守りを頂いた。おみくじは末吉だった。

“はじめは駄目だが時節を待たば幸が来る”とあった。困った時の神頼みではないが良い年になって欲しいと思う。

○帰宅してから驚いた。能登地震の実態が明らかになって来た。日航ジャンボ機と海保機が滑走路で衝突、北九州(鳥食道街)の火災など続併発している。20年前になるが、能登半島一周の旅行



<初詣>1日撮影

をした。永平寺から半島を輪島の朝市に和倉温泉に泊まった。素晴らしいところだと記憶している。瓦礫になった映像を見てあそこがと思った。何も出来ないもどかしさを感じる。

○ガザ殺戮は止まらない。世界で日本で人災と天災が起こっている。“昨年、ある論調として、ガザの子供たちが、餓えの中で苦しみ、死んでいくのに、日本のテレビでは、大食い番組を放送していた。と、この日本人の考え方、感覚に、疑念を呈していた”という話を聞いた。確かに気になる。



<ハウレン草・花菜>15日

能登瓦礫の映像で、**初夢は世界平和能登で醒め。**

ガザの映像を見て、**ガザ止めぬ人道外ケモノ道。**

アウトソウシングという言葉があるが、都合の悪いものを外に出し見えなくする事である。だが、世界は連動し、経済も戦争も災害も連動する。他人事ではない。自分事である。能登地震は日が経つにつれて被災の凄さが、救命と被災支援が早く届くことを祈りたい。

○畑は霜で真っ白、フリーズで、リセット状態なので、少しでも良い状態にと木の根元の篠刈り、ブルーベリー、キュウイの剪定をと少しずつ作業をしている。寒さ、雑用などもあり、まだやり残しが多い。篠竹に覆われたエリアを菜園仲間のFさんが年末に刈り取りをしてくれると云ってくれ、完了したとラインを頂いた。笠間不在のままなので見ていないが嬉しい。草が生育を始まる前に片付けや、畑をより良い状態にして行きたいと思う。今のこの時期がチャンスだと思うからである。(了)

【楽農】<畑>キューイの収穫と剪定。ブルーベリー剪定。畑の片付けなど。

【楽市】イベント等；詩吟例会(15・21日)山野草の会(15日)クリスマス・飲み会(25日)

【つぶやき=Tweet】私的には知力、体力、生活力の衰えで迷走の中！

○昨年末に、“今年を振り返ってと問われ”考えたことであるが、“新しい資本主義”を連呼する総理の発言を聞きながら新しいに？が付いた。二重メガネと揶揄される。悪しき資本主義にでしか見えない。確かに資本主義が問われていると思う。今唯一よりどこになるのは SGDS だと思った。だが、流行言葉のように言われ SGDS 的なことをやればではなく、まやかしてでなく真に達成するための行動が問われているのだと思う。SGDS を経済拡大・開発に使えば CO2 を逆に拡大する恐れもある。まずはマイナス要因の潰すことだと思う。ガザ、ウクライナ、ミャンマ、そして軍事大国化は温暖化対策の真逆のものである。これを止めることが第一だと思う。戦争を止めなければ地球温暖化は止まらないと思う。



<スタバ前で> 2日撮影

○地球温暖化・世界平和のためにはと考えて見た。『地球温暖化は既に危険水域に来ており、社会主義国の“資本主義”を含めた資本主義が試されている。今こそ人類の歴史をつぶさに振り返り、覇権主義を反省し、国連（＝現代の人類）が掲げた唯一の目標とした SDGS の達成が人類の未来に繋がると思う（期待したい）。それは資本主義を止揚（本質的な変革）し、変質した社会主義の克服することでしか達成が難しいのかもしれない。世界のリーダー（政権）の認識を変える世界の市民の活動にかかっているのだと思う。各国で、そんなの主体形成（市民本位の政権？）が問われている。貧困、格差が戦争の火種になる。SDGS の 17 の目標の達成こそが、人類の未来を約束してくれるのだと思う。悪い連鎖もあるが、良い連鎖は起こる。』夢想かも知れないが未来はある。と思う。そんな思いとは、裏腹に、私的には知力、体力、生活力の衰えで迷走の中にある。そんな日々である。今年こそはの希望を持ちたいと思う。



<初詣、茶屋で> 1日撮影

○“イスラエルの国防省は、「私たちは、人間の姿をした動物と戦っている」。けだもの扱いである。軍の報道官は、戦闘の死者が、「ハマス戦闘員 1 人につき、民間人 2 人の割合」としたうえで、「市街戦の困難さを考慮すれば、非常にポジティブだ」と言い放った。平時の理性に照らせば、どれ一つとして容認されない、物いいだろう。いったい戦争は、どこまで人間を、残酷にさせるのか、考えこまされる（朝日元旦の社説の一部）。”やはりひど過ぎる。社説の最後には“パレスチナ人と、イスラエル人の生活空間には、長年にわたって壁や、フェンスが築かれ、同じ人間として、共感する基盤は失われていた。見過ごされたり、軽んじられたりしている、理不尽はないか。争いの芽を摘む、関心と関与を忘れぬ年にしたい。”とあった。人間の良心に懸けてガザ殺戮は止めたい。今年がそうなって欲しい。(了)

○断捨離考：今年こそ？雑物廃棄をと思う！

【後記】戦争止め平和な世界の年に！【HP 転載】

発行者；小暮虎雄

住所；笠間市本戸 4 2 0 1 - 1 0

携帯電話；0 9 0 - 9 3 3 3 - 4 1 3 5

HP；kogure農場

メール；torao-k@nifty.com